

令和4年度 社会福祉法人三彩の里 事業報告承認の件

令和4年度 社会福祉法人三彩の里 本部 事業報告

事業名	開催日	場所	人数	内容
1. 会務の運営				
(1) 監査	4年5.25	会議室	4	1. 令和3年度事業執行状況・会計について
(2) 理事会 (第1回)	4年6.4	会議室	7	1. 令和3年度事業報告について 2. 令和3年度収支決算について 3. 監事選任の件 4. 定時評議員会招集の件 報告事項；監事監査報告
(第2回)	5年3.23	会議室	6	1. 令和4年度補正予算について 2. 令和5年度事業計画について 3. 令和5年度三彩の里会計当初予算について
(3) 評議員会 (第1回)	4年6.18	会議室	7	1. 令和3年度社会福祉法人三彩の里会計決算承認の件 2. 監事の選任・解任の件 報告事項 ① 監事監査報告 ② 令和3年度事業報告について ③ 社会福祉充実計画について
2. 研修会・ 委員会等への参加	4年4.15 5.3~5 5.24 5.24 6.10 6.14 6.23 6.30 7.22 8.30 9.30 10.27	大村市 大村市 長崎市 長崎市 大村市 長崎市 WEB 大村市 WEB WEB WEB 大村市		大村市ネットワーク協議会 三彩の里陶器市 共同受注センター理事会 長崎県 Selp 協代表者会 大村市ネットワーク協議会 長崎県身体障害児者協代表者会 日本セルフセンター総会 共同受注センター優先調達プレゼンテーション 全国 SELP 大会 WEB 長崎県経営者協議会 九州身障児者協議会施設研究大会 共同受注センター工賃向上セミナー

	11.5～6	大村市	三彩の里食と器展
	11.15	大村市	工賃向上セミナー
	12.14	WEB	長崎県経営者協議会後期セミナー
	1.27	東京都	宮中見学
	2.10	大村市	大村市市制 81 周年表彰式
	2.18	大村市	農福マルシェ Omura
	2.20	WEB	全国社会就労センター長研修会
	3.6	長崎市	長崎県身体障害児者協代表者会
	3.15	長崎市	経営協総会
	3.22	長崎市	長崎県 Self 協代表者会

## 令和4年度 就労継続支援B型事業報告

令和4年度は依然としてコロナウィルス感染拡大が続いていたが、感染症対策を徹底しながら5月は陶器市、11月には食と器展と規模を縮小してイベントを実施した。

また、自粛や中止が続いていた地域イベント等も再開され始め、施設でも感染状況を見ながら積極的に出店し、売上向上に努めた。

工賃向上計画については、売上減少や原材料費高騰による利益の低下により、目標達成には至らず、前年度（令和3年度）よりも平均工賃が下がる結果となった。

利用者支援においては、個別支援計画書に沿った指導・支援を行い、また、相談支援事業所を中心として外部意見を積極的に取り入れ、より利用者に寄り添った支援方法を模索・実施した。

### 1. 個別支援計画に沿った支援の充実

各利用者の個別支援計画に基づいて、定期的に相談支援事業所も含めた会議を持ち、計画に沿った的確な支援を行えるよう努めた。モニタリングやサービス担当者会議の実施、また支援日誌や朝礼日誌の情報を職員で共有し、全職員が共通して利用者の生活面や健康面、作業中の問題などに対して認識し、支援が出来るよう努めた。

### 2. 工賃向上計画について

事業所総支給額	7,722,107円
対象のべ人数	343人
平均工賃額	22,513円（月額）【目標工賃 24,000円/月額】 189.8円（時給）

※R3年度 全国平均工賃 16,507円/長崎県平均工賃 19,150円

[陶芸課]	1,919,679円（工賃支給額）
平均	19,589円
利用者延べ人数	98名
[食品加工課]	1,520,590円（工賃支給額）
平均	20,549円
利用者延べ人数	74名
[軽作業課]	4,281,838円（工賃支給額）
平均	25,040円
利用者延べ人数	171名

### 3. 各課別事業報告について

#### [陶芸課]

令和4年度は、イベントや販売などコロナウィルス感染対策を行いながら実施した。陶芸教室では、団体での予約は以前と比べるとまだまだ少ない状況ではあるが、予約サイト等を利用した一般客や団体での陶芸教室、出張陶芸教室の機会が増加している。

商品製造では、既存の注文と飛び込みでの注文の両立がうまくできず、納品に余裕を持って行う事ができなかった。

委託販売では、時季や客層・その場所によって商品やディスプレイをその都度変更し、売上向上に繋げた。コロナウィルスの影響は減りつつあり、海外からの観光客も増えてきていることから売上も少しずつ上がってきている。

利用者支援については、利用者の性格や特性などに合わせて作業内容や作業環境等について職員で話し合っって検討し、支援を行った。

#### 〈年間行事報告〉

月	日	曜日	行事内容	項目	職員 延べ員数	利用者 延べ人数
5	3~5	火~木	陶器市 (3日間)	販売	12名	24名
5	11・25	各水	出張陶芸教室	講習	4名	0名
6	8・22	各水	出張陶芸教室	講習	4名	0名
7	3	日	ハートパルまつり	販売	2名	0名
7	9	土	出張陶芸教室	講習	2名	0名
7	13・27	各水	出張陶芸教室	講習	4名	0名
8	28	土	出張陶芸教室	講習	1名	0名
9	30~10/3	金~月	ふれあい夢彩都販売 (4日間)	販売	1名	0名
10	9	土	999花フェス	販売	1名	0名
10	14	金	出張陶芸教室	講習	2名	0名
10	24	月	陶芸講座 長崎リハビリテーション学院	講習	2名	0名
10	30	日	松吉販売	販売	1名	0名
11	5~6	土~日	食と器展 (2日間)	販売	6名	16名
11	7・21	各月	陶芸講座 長崎リハビリテーション学院	講習	2名	0名
11	19	土	有田陶磁器展 見学	見学	3名	8名
12	5・19	各月	陶芸講座 長崎リハビリテーション学院	講習	3名	0名
12	10	土	出張陶芸教室	講習	1名	0名
1	15	日	はまんこら朝市販売	販売	0名	0名
1	29	日	大村ボート販売	販売	0名	0名

2	18	土	大村市農福連携マルシェ	販売	1名	0名
3	27	月	大村市市民ギャラリー (村部良明遺作展)	見学	4名	8名

※その他、ハート屋観光通り、長崎県庁、オレンジクローバー等に定期的に出店した。

※利用者の出店同行販売については、コロナ感染防止対策として販売同行を控えて頂いた。

#### [食品加工課 パン工房ボンヌ]

令和4年度は物価高騰を受け、原材料の変更や見直しを行い、商品の価格改定を実施。販売面においてはコロナウィルス感染症対策を行い地域イベントや福祉施設の販売会等、積極的に出店した。

また、ホームページやSNSで商品の紹介や販売会の案内など積極的に情報発信を行い、宣伝活動にも力を入れ、売上向上に努めた。

利用者指導においては、個別支援計画書に沿った指導・支援を行い製造技術向上に繋がった。

#### 〈年間行事報告〉

月	日	曜日	行 事 内 容	項目	職員 延べ員数	利用者 延べ人数
5	3~5	火~木	陶器市 (3日間)	販売	9名	12名
7	3	日	ハートパルまつり	販売	0名	0名
9	30~10/3	金~月	ふれあい夢彩都販売(4日間)	販売	1名	0名
10	9	日	999花フェス	販売	0名	0名
10	30	日	松吉販売	販売	0名	0名
11	5~6	土~日	食と器展 (2日間)	販売	6名	8名
11	19	土	有田陶磁器展見学	見学	2名	4名
1	15	日	はまんこら朝市販売	販売	0名	0名
1	29	日	大村ボート販売	販売	0名	0名
2	18	土	大村市農福連携マルシェ	販売	1名	0名

※その他、ハート屋観光通り、長崎県庁、オレンジクローバー等に定期的に出店した

※利用者の出店同行販売については、コロナ感染防止対策として販売同行を控えて頂いた。

#### [カフェボンヌ]

令和2年から、コロナ感染拡大による売上減少の対策として、テイクアウト商品の販売や、プラットおおむらでお弁当の販売を週1回行ってきたが、本来のカフェとしての運営のあり方から外れてきていたことから、令和4年10月11日でお弁当販売を中止した。

今後の運営の方向性を決める為、施設長と食品加工課で会議を重ね、令和5年5月3日よりカフェボンヌをリニューアルすることを決定した。

リニューアルの具体的な内容として、地産地消をコンセプトに旬の野菜、食材を使用したピザ、パスタ等のメニューに一新し、飲み物でも東彼杵産の和紅茶を提供することとな

った。

令和5年1月より利用者が2名入り、カフェの清掃、製造作業や接客技術の向上の為、指導、支援を行った。

#### 〈年間行事報告〉

月	日	曜日	行事内容	項目	職員 延べ員数	利用者 延べ人数
5	3~5	火~木	陶器市(3日間)	販売	7名	1名
7	3	日	ハートパルまつり	販売	1名	0名
11	5~6	土~日	食と器展(2日間)	販売	4名	4名
12	20~22	火~木	クリスマスウィーク(3日間)	営業	3名	5名

※毎週1回、プラットおおむらの販売を実施(令和4年10月11日で弁当販売中止)

#### 〔軽食ターンマーク〕

令和4年度は材料・光熱費等の高騰により経費が増し、原材料の仕入れ先の変更や材料の見直しを行った。新商品として海老天うどん、かき揚げうどんを販売し、売上向上に繋がった。

また、12月には軽食ターンマークがオープンしてから5周年を迎えた為、ご来店頂いたお客様にスピードくじを引いて頂く感謝祭を実施し、たくさんのお客様に喜んで頂いた。年間売り上げについては、前年度(令和3年度)より向上したが、経費も増していることから利益は減少している。

利用者支援においては、調理に興味がある利用者、炒めや切込みなど調理補助等の指導を中心に行い、技術向上や工賃向上に繋がった。

#### 〔軽作業課〕

施設内の作業は、野菜受託加工作業を中心に行った。施設外の清掃業務では、中心市街地複合ビル、ハイテク記念公園、鎮西学院大学大村サテライトキャンパスの通常清掃、特別清掃を行った。利用者のコロナ感染防止の為、マスク・手洗い等の徹底と、施設内の清掃においても感染防止の為、通常清掃では日頃人の手が触れる箇所は徹底して清掃を行えるよう努めた。複合ビル、サテライトキャンパスの特別清掃では、今回新たにバキューム掃除機を導入し、前回まで使用していたバキューム掃除機よりも操作性がよくなり、使用できる利用者が増え、作業効率の向上に繋がった。また共同受注センターの業務委託では除草作業を中心に作業を行った。夏場の熱中症等の対策を徹底し、現場の状況によっては除草した草を施設の作業場に持ち帰り袋詰めを行う等、可能な限り安全に作業を行えるよう努めた。

#### (施設外作業別の回数と出席回数)

ハイテク記念公園清掃 清掃回数 月10回 年120回 参加利用者数 6名  
内容 駐車場・広場の掃き清掃、公衆トイレ清掃、月1回の除草作業  
中心市街地複合ビル清掃 月曜から金曜(平日の祝日も含む)

12月31日と1月1日を除く年261回

参加利用者数6名

内容 1階 玄関、エントランス、ロビー、廊下、給湯室、階段  
喫煙所

2階 廊下、給湯室、階段

5階 廊下、給湯室、階段、会議室、和室

6階 廊下、給湯室、階段、会議室、和室、娯楽室

特別清掃（ワックスがけ）10月～12月

除草作業 参加利用者1日につき3名

・新大村駅周辺土地区画整理事業用地除草業務委託

依頼月	開始日			完了日		
	月	日	曜日	月	日	曜日
4	5	23	月	6	6	月
7	7	25	月	8	3	水
8	8	29	月	9	15	木
12	1	10	火	1	17	火

・旧埋蔵文化財収蔵倉庫除草業務委託 参加利用者1日につき2名

依頼月	開始日			完了日		
	月	日	曜日	月	日	曜日
6	6	27	月	7	14	木

・久原大気観測所除草作業業務委託 参加利用者3名

依頼月	開始日			完了日		
	月	日	曜日	月	日	曜日
10	11	10	木	11	10	木

・ハローワーク剪定除草作業 参加利用者 1日目：6名 2日目：2名

依頼月	作業1日目			作業2日目		
	月	日	曜日	月	日	曜日
5	7	16	土	7	28	木
2	3	4	土	3	8	水

#### 4. 生活支援について

令和4年度も利用者の居室管理を生活支援員と利用者自身にもチェックをしてもらい、整理整頓に対する意識の向上を図った。また、コロナ感染拡大により施設入所利用者が外出禁止になった際は、各課で感染対策を徹底して外出支援を実施した。

〈年間行事報告〉

月	日	曜日	行 事 内 容	項目	利用者 人数
4	30	土	初午祈願（施設）	行事	0名
5	21	土	お食事会（清香園）	行事	28名
5	25	水	チャレンジデー	行事	28名
7	30	土	利用者外出支援（野岳湖）	行事	15名
8	6	土	原町 町内会清掃	行事	6名
9	3	土	お食事会（三彩の里）	行事	28名
11	19	土	有田陶磁器展 見学	見学	12名
12	26	月	利用者忘年会（いこいの村）	行事	28名
12	20～22	火～木	クリスマスウィーク（カフェ）3日間	行事	28名
3	27	月	大村市市民ギャラリー（村部良明遺作展）	行事	8名

※各月カフェにて利用者のお誕生日会を実施した。

※毎月1回土曜日 希望する利用者の買い物訓練を実施した。

#### 5. 保健衛生面について

コロナウイルスが感染拡大するなか、施設内にウイルスを持ち込まないことを徹底。感染状況によっては外部との面会禁止等を実施した。

また、利用者へのマスク着用の励行や手指消毒の指導、毎日の検温を徹底し感染防止対策を行った。

#### 6. 給食について

毎月給食会議を実施し食事面の問題点などの検討と、全体への報告を行った。掲示板等を使用して、食事に関する栄養や健康面などの情報提供も行った。

## 【生活支援面】

### 1. 個別ニーズに応じた日常生活支援

- 1) 生活介護利用者の方は年々、身体レベルが重度になり、様々な問題等が起こっている。その都度話し合いの場を設け対応した。
- 2) 各関係機関等と連携し、随時支援状況の評価・検討を行ないサービス利用計画等の作成に深く関与した。
- 3) サービス利用等計画書に基づき、アセスメントを実施し、利用者のニーズに応じた個別支援計画を立案し、計画に沿った支援を行った。個別支援計画の期間は6ヶ月とし、見直しを行った。
- 4) 個別の移動状況に応じた支援を行いながら、残存能力の維持に繋がるようリハビリテーションやレクレーションの声掛けを行った。
- 5) また利用者それぞれの能力を活かしながら出来ない部分を補う形での入浴介助や洗濯、居室清掃などの支援を行った。

### 2. 機能回復訓練

- 1) 令和4年度も、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、理学療法士に来所して頂く事が出来なかった為、資料を基にリハビリを行い、e-sportsも積極的に取入れ残存能力の維持や筋力低下等にならぬように努めた。

### 3. 介護

- 1) 担当職員が同じレベルの介護・支援が行えるよう、生活支援会議、サービス利用担当者会議、ケア会議など実施し職員間の共通認識を図った。

### 4. 社会資源の活用

- 1) 感染対策を実施しながら季節感を感じられる「花見（桜）」「花菖蒲見学」「紅葉見学」などを実施し、食事会も併せて実施した。通年行なってきたイベントを出来るだけ通常通り行なえる様に務めた。
- 2) 自力で外出を行う事が困難な方に対し、散髪支援、買物支援、外出支援を継続して実施した。



「花見」



「花菖蒲見学」



「紅葉見学」

## 5. 作業訓練

- 1) 生活介護サービス利用者も、陶芸課、軽作業課、食品加工課にそれぞれ配属され生産活動に参加。  
リハビリを主な目的としながらも、作ることの喜びや達成感により作業に対する意欲が高められた。
- 2) 陶芸課…手びねり作業やたたら作業では成型から仕上げまで一人で行える利用者と一部を担当し製造に関わる利用者に分かれ商品の製造を行なった。また、毎朝作業場で点呼を行い作業に出ていない利用者へは作業への促しを行い、作業に出る事への習慣化と技術面の維持に努めた。
- 3) 軽作業課…しめじキャップの洗浄作業、野菜の袋詰めと運搬作業、2ヶ月毎に製造しているボカシのすり潰し作業と計量作業を行った。どの作業も全体で協力して作業を行っていないと成り立たないことから、B型の利用者と協力し合いながら一緒に作業を行った。
- 4) 食品加工課…令和5年1月より利用者1名が配属となり、レジ計算、接客等の指導訓練を実施した。自立歩行が難しく歩行器使用である為、主に座っての作業ではあるが意欲的に取り組む事が出来た。また、短時間ではあるが、洗い物などの立ち仕事も行えるようになった。

## 【保健衛生面】

### 1. 日常の健康管理

- 1) 朝礼や昼礼などで具合が悪い利用者がいないか聞取りを行なった。  
又、服薬の介助、薬の管理を行い体調不良時には通院(受診、薬の受け取り)居室や 医務室での静養、検温や血圧測定を行った。職員間には、朝礼で報告し情報交換を行った。
- 2) 高血圧で内服治療中の利用者は(19名)自分で測定できる利用者には、測定ノート記入していただき通院時に持参してもらい通院箇所との連携を取った。
- 3) 糖尿病でインシュリンや内服治療の利用者には、血糖値測定、インシュリン注射の介助や服薬支援を行った。頻回に針を刺すことで皮膚トラブルのある利用者には、医師と相談で2週間に1回、測定センサーの入れ替えを行った。
- 4) 低血糖や高血糖がないか観察を行い、対応し通院時報告を行なった。  
服薬管理について、本人の確認・薬袋の名前の確認・服薬時間の確認を行い、服薬支援を行った。お薬カレンダーへのセットは看護師2名夜勤者1名でチェックを行った。
- 5) 機能回復訓練では、新型コロナウイルス感染拡大予防で、外部からの訪問を禁止しており、職員にできるリハビリとして、テレビ体操や、ボールを使つての運動、ホットパック、マッサージを行った。また、利用者全員行う事が難しく、午前・午後、曜日を決めて1人の利用者に少しでもかかわりが持てるよう行なった。
- 6) 月1回の体重測定を実施。5Kg以上減少した利用者はなく、増量した利用者が1名あ

った為、支援員で完食（おやつ）管理を行なった。

- 7) 入浴介助はシャワーチェアやリフトを使用し介助を行った。夏場週 3 回、冬場は 2 回実施し、身体の保清に努めた。
- 8) 歯科往診では、診察治療と健診を実施。必要な利用者にはブラッシングのやり方指導を実施、介助が必要な利用者には支援を行った。
- 9) 皮膚疾患の利用者は適宜往診して頂き、処方された軟膏処置を行った。

## 2. 定期健康診断

- 1) 入所者、夜勤者は年に 2 回の定期健康診断を実施。
- 2) パート、通所者、グループホームの世話人さんは年に 1 回定期健康診断を実施。
- 3) 35 歳以上の職員は協会けんぽの健康診断を年に 1 回実施。
- 4) 異常が認められた利用者には、嘱託医に相談し再検査を実施。又本人の許可をとり通院箇所の主治医とも情報を共有した。

## 3. 感染症等の予防対策

- 1) 新型コロナウイルス感染症に対して、検温を 1 日 2 回実施。通所者、グループホームに対しては、連絡帳にて、毎朝の検温を確認した。  
体調管理についてご家族、世話人さんとの連携をとった。  
アルコール消毒、マスクの着用を呼びかけ、かけていない利用者には支援を行った。
- 2) 入居施設、交流の場、面会等の制限を行った。
- 3) 令和 4 年 12 月に長崎県障害福祉課から従事者の週 2 回の新型コロナウイルスの抗原検査の実施要請があり検査を行なったが陽性者は無かった。
- 4) 熱中症や季節性インフルエンザ、ノロウイルスの感染症への対策。  
勉強会と呼びかけを行った。利用者には画面を通しイラスト入りで勉強会を行い、職員には朝礼や会議等と呼びかけを行った。
- 5) 新型コロナワクチン、インフルエンザワクチンを希望する利用者への対応。  
接種予約、接種同行、副反応への対応等を行った。  
インフルエンザワクチン接種率は 86% だった。  
新型コロナウイルスは各回ごとに、住民票がある市町に連絡を行い接種券を取得した。

## 4. 転倒予防について

- 1) ヒヤリハット事例を検討し環境整備を行った。
- 2) 安全帽の着用の声掛けを行った。

## 5. 居室衛生管理について

- 1) 定期的に居室チェックを行い、環境整備を声掛けし、できないところは支援した。
- 2) 半年に 1 回程度、殺虫剤を使い居室の害虫駆除を実施。  
適宜、居室や発生しやすい箇所には、駆除剤を設置した。

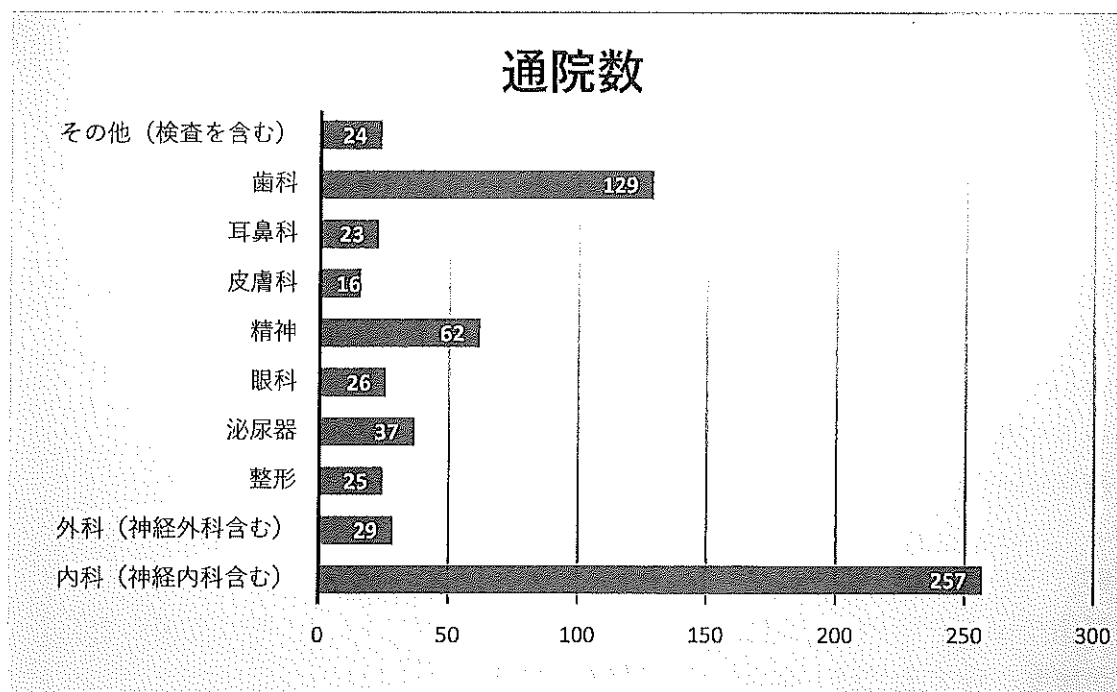
## 6. 健康講座

1) 虫歯予防として、新型コロナウイルス感染拡大、クラスターを避けるために利用者全員を集めることができなかったため、歯科治療時に個別に、医師、衛生士による指導を実施。

## 7. 通院状況

1) 昨年度の605回に対して628回と23回通院回数が増加しており、利用者の高齢化や重度化に伴い、予約なしでの急遽通院もあった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科（神経内科含む）	25	23	21	6	23	19	27	9	25	43	24	12	257
外科（神経外科含む）	2	3	3	2	5	2	2	2	3	1	3	1	29
整形	4	2	2	3	4	2	1	1	1	4	2	0	25
泌尿器	5	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	1	37
眼科	3	2	2	2	3	4	1	2	1	2	2	2	26
精神	7	6	5	7	4	6	3	3	6	3	8	4	62
皮膚科	2	0	1	0	2	0	1	3	0	1	6	0	16
耳鼻科	2	4	4	1	1	1	1	1	0	5	0	3	23
歯科	12	12	11	11	10	9	9	10	9	11	15	10	129
その他（検査を含む）	8	2	0	8	0	0	0	0	0	0	0	6	24
合計	70	57	52	44	55	46	48	34	48	72	63	39	628



## 【給食部門】

### 1.食中毒の予防

食中毒や感染症の予防対策として、調理従事者の健康管理や、調理室の温度・湿度管理、原材料及び調理後の食品の温度管理の徹底を行うことが出来た。また、原材料の受け入れ・下処理段階における管理を充分に行い、食中毒を防止することで安心・安全な食事提供が行えた。

### 2.お花見昼食会（令和5年3月24日実施）

手作りではなく外部にお花見弁当を注文し、提供を行なった。  
当日は雨天だったため、食堂内で提供した。

### 3.クリスマス会（令和4年12月23日実施）

新館食堂にてクリスマス食の提供を行なった。コロナ禍のためバイキング形式ではなく個々での食事形態とし、フライドチキン・お寿司・ミネストローネ等の提供を行なった。

### 4.行事食の提供

お花見・土用丑の日・七夕・クリスマス・餅つき・おせち料理・鏡開き・節分・バレンタインデー・ひな祭りの行事食の提供を行なった。

### 5.防災の日（令和4年9月1日）

年1回防災の日に非常食を喫食し、防災について考える機会作りを設けた。  
災害時における非常食の確保を行ない、ライフラインの寸断や施設の損壊等の状況下でも継続的な食事提供に近づけられる体制作りを整備し、災害の発生に備えることが出来た。

### 6.パン食の提供

週に1回昼食でパンに合うメニューを考慮しながら、献立作成を行なった。喫食者の飽きが来ないように、様々なパンを三彩の里パン工房に製造してもらい給食に取り入れることが出来た。

### 7.麺食の提供

嗜好調査で麺類が食べたいとの声が半数以上あったため、週に1回昼食で麺類の提供を行なった。（うどん・そば・ラーメン・ちゃんぽん・焼きそば・担々麺等）日常の食事に変化を取り入れ、利用者の施設生活の充実を図ることが出来た。

### 8.治療食・個別対応食の提供

減塩食の提供を行なった。（2月より）  
各部署と連携を取りながら利用者の体調の変化に合わせた食事を提供した。

## 9.給食会議

参加者：施設長・調理員・(生活支援員・栄養士2月より)

よりよい食事提供のために月1回会議を開き、翌月の行事・衛生管理・給食メニュー等課題を取り上げて検討し、日常的な情報交換・共有の徹底を行なった。

## 10.嗜好調査 (令和4年度12月17日実施)

入所者 37名 通所者 13名(うちターンマーク1名) 合計49名

利用者の嗜好やニーズに配慮した質の高い食事サービスに努めるために、嗜好調査を実施した。日常の食事や行事食に対する意見や要望をアンケート形式の聞き取りにて実施し、喫食者の嗜好や現在の食事に対する不満等の状況の把握を行うことが出来た。

## 令和4年度 施設入所支援事業報告

### 1. 生活支援について

#### 1) 個別支援サービスの充実

利用者個々に対し必要に応じてアセスメントを行いサービス管理責任者を主体にケア会議を開き、利用者個々のニーズや希望に応じた支援計画書を作成し計画書に沿った支援を実施した。個別支援計画書の支援期間は6ヶ月とし見直しを行った。

#### 2) 相談支援について

必要に応じて個別面談を実施し、生活状況の把握に努めた。また、担当利用者の相談支援事業所と連携し、迅速な対応に努めた。

### 2. 介護支援について

利用者の身体状況の変化等に応じ、サービス管理責任者を主体にケア会議を開き個別に応じた入浴や排泄などの介護支援に努めた。

### 3. 災害（火災・自然災害）及び施設整備について

火災・夜間想定の避難訓練を実施した。

### 4. 虐待対策について

虐待対策・防止について、職員全員参加の施設内研修を実施した。

### 5. 苦情解決について

令和4年度の苦情受付においては、6例あったが解決済みとなっている。

利用者間のトラブル・・・3件

職員に対する苦情・・・3件

尿意が無いのにトイレに行くように言われた。

職員からの注意や声掛けの仕方について

インスリン介助忘れの内容であった。

言葉遣いを正しく丁寧にし、誤解が生じない様、接遇マナーの指導を行なった。

### 6. 感染症等の予防対策について

新型コロナウイルス感染症対策では、国や県の通達に従い、感染を防止するうえで、外出・外泊の自粛や面会制限、又来訪者には、手指の消毒・検温・マスク着用・チェックリスト等の対策を行い協力して頂いた。

### 7. 施設入所者数の現員及び入退所者数について

#### 1) 令和4年4月～令和3年3月の施設入所者数

令和4年4月末日現在 定員50名 現員37名。

令和5年3月末日現在 定員50名 現員37名。

2) 令和4年4月～令和5年3月の入退所者数

入所者数 3名、退所者数 3名。

3) 入所者の2名は、生活介護サービス利用、1名は就労継続支援B型サービス利用の施設入所支援となっています。退所者の3名に関しては、身体レベルの重度化に伴い、高齢者施設・病院へ移行となり、退所された。

## 令和4年度 共同生活援助『カサロッサ・ぱびるす』事業報告

### 1. サービス内容について

食事の準備や居室清掃など専属の世話人のもと、家庭的な雰囲気の中で利用者間の交流・親睦を深めた。

食事については、利用者の喜びに繋がるようリクエストに応じた食事メニューの提供や、健康状態に合わせた食事メニューの提供を実施した。

また、通院時の送迎・買い物等の支援も必要に応じて実施した。

### 2. 行事について

陶器市、利用者忘年会、地域清掃活動等の行事に参加し、施設利用者や地域の方々と交流することができた。

### 3. 職員研修について

施設内では、利用者への支援のあり方についての内部研修を実施し、生活面等のサービス検討について、施設長、管理者、世話人で月1回会議を実施した。

施設外の研修は新型コロナウイルス感染症の影響により、主にWEBで研修会に参加した。

### 4. 緊急時等における対応

令和4年度中は、生活面で利用者には大きな問題はなく、体調の急変等見られなかったことから、緊急で対応することはなかった。今後も、体調の急変等による緊急時には、速やかに管理者に報告すると共に主治医に連絡をとる。

### 5. 災害対策について（火災・自然災害）

施設で実施される避難訓練には、施設の利用者と共にGH利用者も参加した。また、自然災害に対する備え等について、世話人、利用者と共に意識づけを図った。

### 6. 虐待対策について

日頃より電話連絡や週1回GHを訪問した際に世話人と連携をとっており、GHの各居室にも伺って何か変化等がないか、利用者とのコミュニケーションを図るなかで確認を行った。また月1回行っているGH会議のなかで年に1度、虐待防止の内部研修を実施した。

### 7. 苦情解決について

苦情解決については、利用者や世話人からGHの生活について聞き取り等を行い、GHにも苦情解決の対応について掲示を行なっている。利用者間での問題はあったが、その都度の聞き取りを行って早期解決に努めたことから、大きなトラブルもなく仲良く生活を送ることが出来た。

#### 8. グループホーム カサロッサの廃止について

グループホーム カサロッサは、高齢化・重度化による異動等で利用者がいない状況が続き、令和3年度・令和4年度と各関係機関に連絡を取り合い、利用希望者を紹介して頂いたが、新規利用者の獲得にまで到らなかった。その為、令和5年3月時の理事会で廃止が決定し、県障害福祉課へ廃止届を提出、正式に受理された。